

## 論文審査の結果の要旨

氏名：土 方 圭

博士の専攻分野の名称：博士（教育学）

論文題名： 野外教育の指導に関する定性的研究 –野外という臨床性に着目して–

審査委員：（主 査） 教授 鈴 木 理 ⑩

（副 査） 教授 青 山 清 英 ⑩ 日本大学名誉教授 澤 村 博 ⑩

本論文は、野外教育における指導について定性的なアプローチを試みた研究である。

著者は、従前に行われてきた野外教育の指導研究について検討を加え、捨象されがちであった「現実（指導実践の場）」の知を掬うために「臨床性」への着目を訴えるとともに、その臨床性を基礎付ける「野外」概念の再検討を試みている。

先ず先行研究を吟味し、普遍・論理・客観主義を背景とする「科学」のもとに実施されてきた指導者研究の在り方に対し、指導実践における臨床性の尊重という観点から疑義を呈している。なぜなら、野外教育は「自然・人・体験」がキーワードとされる学際領域であり、「自然」及び「人」は複雑性・多義性を孕み、また、「体験」はこれら二つの要素が密接に絡み合う極めて文脈依存性の強い現象といえる。このような「場（場所）」における指導実践を「統制」や「定量」といった「科学的」作法で切り取り、理想的な指導として提示するだけでは、およそ「現実」を把握することができないと考えられるからである。

そこで著者は、社会構成主義的な観点から、指導者個々の身体を通し蓄積された経験の「語り」をデータとして収集し、そこに解釈を加えている。最初の定性的研究では、指導者（被験者）が自身の実際の指導をビデオ映像でフィードバックし、さらにそれら過程を「語る」という行為を通して、指導スキルに関する様々な気づきを得て、自己創生を遂げていく姿が描写されている。続く3つの研究では、指導者の「指導態度」や「自然イメージ」、「自然体験活動に見出す意義」が扱われ、経験による堆積が「語り」により臨床性を損なわない仕方で提示されている。そして、これら指導者に関わる知見は「自然」の「関係概念」的側面に密接に関わるという示唆を得るに至った。

ところが、野外教育全般における「野外≒自然」という理解は、「自然」の関係概念ではなく実体概念としてのイメージの強さに引き摺られ野外教育実践に混乱を来すと著者は指摘した。これを受けて、自然に代わり自然を包摂する関係概念として構想された和辻の提唱する「風土」を立脚点とし、野外教育を再定義した。

以上のように、新たな観点から野外教育の指導について精緻に探究し、また、野外教育の鍵概念である「野外」の再概念化を推し進めた本研究の成果は、野外教育指導の向上に資する研究として高く評価することができる。

よって本論文は、博士（教育学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成 年 月 日